

## 第2回ファシリテーション研修 成果

研修後、参加した LA を対象に感想や研修内容をたずねたアンケート（記述式）を実施した。研修の感想についての回答は、以下の通りであった。

### <研修の感想について>

- ・春学期の LA 活動が終わり、時間が空いて中だるみをしていたので、研修を通してファシリテーションの役割や、その役割が目指すところを確認出来たのはその後のモチベーション維持にとっても役立った。
- ・新しく LA になった学生が数名参加していたため、「あまり話したことの無い人とペアになり無言でお互いを見つめ合う」というワークでは、LA がお互いを知ることができたと思う。
- ・「安心な場」という概念がとても印象的だった。ファシリテーターとして求められる場の役割の一つが場の議論を健全な方向へと促す、ということは理解していたのだが、この概念の講義を通して、具体的にどのような行動がファシリテーションに求められるのかを知ることが出来たのはとても助かった。

LA にとって、自らの経験をふまえながら、ファシリテーションの役割や場、雰囲気づくりについて考える研修になったようだ。なかでも、場づくりにおける「ガードレール」の意味についての講義が印象的<sup>図1</sup>だったようで、特に印象に残った内容について尋ねたアンケートでは、ガードレールについて書かれている内容が目立った。

### <特に印象に残った内容について>

- ・ガードレールを上手にせばめたり、ゆるめるためには場の雰囲気をつかむことが重要である。場の雰囲気をつかむには事前の準備が必要とされる。
- ・ガードレールをゆるめたり、せばめたりするのは難しく、こんなに口出ししてもいいのか、放置してもいいのか、と（授業で）常に悩んでいた。
- ・どこまでが「放牧」なのか線引きが難しかったが、簡単に答えを出さないことで受講生が自分で考えるように意識させることができたのではないだろうか。

内容を見ると、研修に参加した LA は実際の授業でも「ガードレール」を意識して臨んでいるようだ。一方で、ガードレールを実践するときの難しさや、悩みをもちながらも受講生のために活動している姿がよみとれた。

また、「受講生に対して、頭ごなしに否定しない、いろいろな考え方を受け入れるなどをして、受講生が発言しやすい場づくりを心掛けた」という LA もおり、LA 自らが考え行動している姿もみられた。実際の授業では「大半の受講生は LA を受け入れて、心を開いてくれたようだった」との感想も寄せられ、LA 自らが自分たちの存在価値を感じることができる研修となった。

以上のことから、LA に必要なスキルを学ぶだけの機会ではなく、互いの成長を確認できる場となり、実りある研修であったと言える。

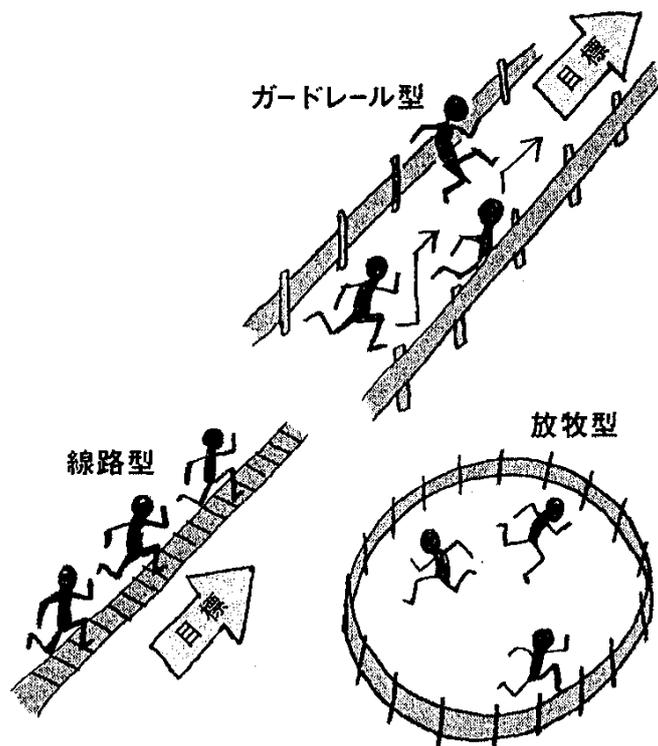


図1 教育の3つの方法のイメージ図【児童心理（金子書房）2009年4月（No.893）より】